

みなみ区のあらまし

南区は、札幌市の南西部に位置し、「小樽市・千歳市・恵庭市・伊達市・京極町・喜茂別町・赤井川村」の4市2町1村と「中央区・豊平区・清田区・西区・手稲区」の市内5区と接しています。

南北に37.6km、東西に33.2kmの広がりを持ち、面積は657.48km²で全市域の約60%を占めています。

区域には支笏洞爺国立公園が含まれ、札幌岳や余市岳など標高1,000mを超える高峰17座がそびえ立つなど、緑豊かな自然と人口約13万3千人(令和6年2月現在)を抱える住宅街とが調和した街として発展を続けています。

札幌のシンボルの一つである藻岩山や市民の水がめである豊平峡ダム、定山溪ダムがあるほか、恵まれた自然を生かした大規模な滝野すずらん丘陵公園や石山緑地、札幌国際スキー場、ハイキングコースなどの憩いの場が整備されています。

農業は市内10区中3位の農地面積を有し、果樹栽培も盛んで、観光果樹園は多くの人気を集めています。さらに、健康保養地である定山溪温泉は、夏の涼味、秋の紅葉も人気があり、市内外から観光客が大勢訪れています。

このほか、パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)が開催される札幌芸術の森があり、北方文化の発信地としての期待も大きい区です。



地区の素顔

すみかわ 澄川 全ての人が安心して暮らせるまちづくりをみんなで取り組むまち



明治15(1882)年、筑前(現福岡県)からの団体移住があった澄川地区は、清らかな精進川の流れとりんご畑や田畑が広がる農村地域でした。誰もが支えあう「ふれあい事業」のほか、安心・安全に力を入れたまちづくり活動を行っています。

ご畑や田畑が広がる農村地域でした。誰もが支えあう「ふれあい事業」のほか、安心・安全に力を入れたまちづくり活動を行っています。

もいわした 藻岩下 山と川に癒やされるまち



藻岩山と豊平川に囲まれた、南30条から39条に続く地域です。藻岩下地区には市民に親しまれている、札幌藻岩山スキー場と豊平川緑地ウォーターガーデンがあります。また、藻岩下流雪溝も整備された住みよいまちで、青少年育成や子どもの見守り運動に力を入れています。

藻岩山と豊平川に囲まれた、南30条から39条に続く地域です。藻岩下地区には市民に親しまれている、札幌藻岩山スキー場と豊平川緑地ウォーターガーデンがあります。また、藻岩下流雪溝も整備された住みよいまちで、青少年育成や子どもの見守り運動に力を入れています。

まこまない 真駒内 水と緑と優しいまちは



区役所・消防署・郵便局などが集まり、マンションなどの共同住宅が多い住宅街。昭和47(1972)年の冬季オリンピック札幌大会にゆかりのある建物が数多く残されています。花の植栽など、住民が主体となって快適な生活環境の推進に取り組んでいます。

区役所・消防署・郵便局などが集まり、マンションなどの共同住宅が多い住宅街。昭和47(1972)年の冬季オリンピック札幌大会にゆかりのある建物が数多く残されています。花の植栽など、住民が主体となって快適な生活環境の推進に取り組んでいます。

もいわ 藻岩 藻岩山の南麓に広がる、自然と共に生きる美しいまち



国道230号と旧国道沿線に位置する川沿地区、藻岩山南麓の丘陵地帯に位置する北ノ沢と中ノ沢地区で構成されています。夏には地区をあげて「もいわ夏まつり」、冬には地区一帯で「アイスキャンドル」が実施され、幻想的な景観を創り出しています。

国道230号と旧国道沿線に位置する川沿地区、藻岩山南麓の丘陵地帯に位置する北ノ沢と中ノ沢地区で構成されています。夏には地区をあげて「もいわ夏まつり」、冬には地区一帯で「アイスキャンドル」が実施され、幻想的な景観を創り出しています。

みなみさわ 南沢 国内ラベンダー栽培発祥の地



昭和15(1940)年、香料抽出を目的に国内初のラベンダー栽培が行われたといわれており、現在もラベンダーを核にしたまちづくり活動が行われています。昭和30年代に入り、人口が急増。平成11(1999)年に藻岩地区町内会連合会から分町し、現在に至っています。

昭和15(1940)年、香料抽出を目的に国内初のラベンダー栽培が行われたといわれており、現在もラベンダーを核にしたまちづくり活動が行われています。昭和30年代に入り、人口が急増。平成11(1999)年に藻岩地区町内会連合会から分町し、現在に至っています。

いしやま 石山 自然と歴史遺産に恵まれた石切の里



明治時代、札幌軟石の本格的な採掘が開始され、運搬のための馬車鉄道が敷設。大正7(1918)年には定山溪鉄道が開通、石山は定鉄沿線および国道230号沿線の中核として発展しました。「安全で安心な住みよいまちづくり」をスローガンにさまざまな取り組みを行っています。

明治時代、札幌軟石の本格的な採掘が開始され、運搬のための馬車鉄道が敷設。大正7(1918)年には定山溪鉄道が開通、石山は定鉄沿線および国道230号沿線の中核として発展しました。「安全で安心な住みよいまちづくり」をスローガンにさまざまな取り組みを行っています。

げいじゅつ もり 芸術の森 人と自然に優しい文化推進の里



国道453号を中心とした自然と芸術が豊かな地区。札幌芸術の森では、毎年、パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)が開催されています。「芸術の森地区文化祭」や「雪あかりの祭典」をはじめとする文化・芸術やスポーツ振興に力を入れています。

国道453号を中心とした自然と芸術が豊かな地区。札幌芸術の森では、毎年、パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)が開催されています。「芸術の森地区文化祭」や「雪あかりの祭典」をはじめとする文化・芸術やスポーツ振興に力を入れています。

ふじの 藤野 花とみどり・文化と福祉のまち



江戸時代から、この地域で材木請負業者が伐採していた記録があります。明治16(1883)年に松沢松之助一家が現在の西藤野に移住し、大正から昭和にかけて果樹栽培によって栄えました。福祉活動や青少年の健全育成などの地域活動に熱心に取り組んでいます。

江戸時代から、この地域で材木請負業者が伐採していた記録があります。明治16(1883)年に松沢松之助一家が現在の西藤野に移住し、大正から昭和にかけて果樹栽培によって栄えました。福祉活動や青少年の健全育成などの地域活動に熱心に取り組んでいます。

みすまい 簾舞 自然に恵まれ、歴史を残す魅力あふれるまち: 魅住まい



明治4(1871)年、本願寺街道が開通し、翌年に開拓使が旅行者などの宿泊休憩所として通行屋を設けたことに始まる地区。今も専業農家による果樹・野菜栽培が続いており、豊かな自然と美しい田園風景が広がり、市内にわずかに残る国蝶オオムラサキの生息地でもあります。

明治4(1871)年、本願寺街道が開通し、翌年に開拓使が旅行者などの宿泊休憩所として通行屋を設けたことに始まる地区。今も専業農家による果樹・野菜栽培が続いており、豊かな自然と美しい田園風景が広がり、市内にわずかに残る国蝶オオムラサキの生息地でもあります。

じょうざんけい 定山溪 大自然に囲まれた温泉地



慶応2(1866)年に美泉定山(みいずのどうざん)によって拓かれ、定山溪鉄道の開通、昭和30年代の温泉ブームにより目覚ましい発展を遂げました。現在は、豊富な温泉と多彩な山野草に恵まれた温泉地となっています。札幌岳や余市岳など1,000m級の山々が連なる自然豊かな地区です。

慶応2(1866)年に美泉定山(みいずのどうざん)によって拓かれ、定山溪鉄道の開通、昭和30年代の温泉ブームにより目覚ましい発展を遂げました。現在は、豊富な温泉と多彩な山野草に恵まれた温泉地となっています。札幌岳や余市岳など1,000m級の山々が連なる自然豊かな地区です。